



第55回NM-GCOEセミナー 山田 哲司 先生

2011.9. 28
薬学研究科
C棟
講義室

(国立がん研究センター研究所上席副所長・創薬臨床研究分野長)

～プロテオーム解析によるがんのバイオマーカーと創薬標的分子の探索～

バイオマーカーの研究は癌の早期発見、病態、既に行った治療の評価を行う上で非常に有用であり、近年注目されている研究分野です。今回ご講演いただいた山田先生にはゲノム、プロテオーム解析を用いて、さらに一歩先のバイオマーカーとして将来の癌の再発や転移、さらにはこれから行う治療の影響を予測するバイオマーカーの開発をご紹介いただきました。肺線癌は早期で見つかった場合には予後は比較的良いのですが、それでも再発で亡くなる方がいます。山田先生が発見された Actinin-4 というバイオマーカーは予後を予測することが可能であり、予後が悪い患者に対して補助化学療法や経過観察を行い再発に対するリスクをあらかじめ軽減できる点で有用であると感じました。また、2DIGAL という新しいプロテオミクス手法の開発をされ、膵臓癌のゲムシタビンの血液毒性マーカーとしてハプトグロビンを同定されました。このマーカーも実際の治療に応用できる非常に良いマーカーであると感じました。山田先生が行っている「将来」の疾患に対するバイオマーカーは現在注目されている個別化医療を実現していく上でキーとなってくる研究ではないかと思ひ、非常に興味を持つことができました。

米山 敏広 (薬物送達学分野・大学院生)



講師：山田哲司先生



講義内容

- 術後再発を予測
 - 患者の予後を予測する
 - 抗がん剤の副作用を予測する
- バイオマーカー



大学院生の感想

- 非常に面白いお話、ありがとうございました。私も癌に対するイメージング剤の研究をしているので大変刺激になりました。
- 仮説ではなく、プロテオミクスを用いて実際の症例からバイオマーカーを見出す理論について、分かりやすく講義していただき、とても勉強になりました。今後臨床の場で使いやすい形で解析、検出可能であれば、とても患者さんにとって有益だと思われるマーカーの話をお聴くことができ、将来への期待が高まりました。
- 将来、罹患、若しくは再発するであろう疾病、更にはその時の症状を予測した個別医療につながる現在非常にホットな話題としてプロテオーム解析による癌のバイオマーカーと創薬標的分子の探索について山田哲司先生の講演を拝聴しました。これまでの研究によって肺がんに対しての actinF4、大腸がんでは Wnt シグナルにおいては β catenin/TCF4 複合体がターゲットになり得るという成果について紹介をいただきました。最後はキナーゼが今後良い治療標的となり得るという将来性に触れられ、今後の当分野の発展を感じさせられる講演でした。

